

平成 27 年度第 2 回愛知県環境審議会専門調査員協議会 審議の概要

1 日時

平成 28 年 2 月 22 日（月） 午後 2 時から午後 4 時 30 分まで

2 場所

愛知県自治センター 5 階 研修室

3 出席者

(1) 専門調査員

神戸専門調査員、福岡専門調査員、中西専門調査員、成田専門調査員、村松専門調査員、岡田専門調査員、服部専門調査員、榊原専門調査員、水野専門調査員、中尾専門調査員、服部専門調査員、森専門調査員、山岡専門調査員、吉田専門調査員

(以上 14 名)

(2) 事務局

愛知県環境部自然環境課：伊藤主幹、夏目課長補佐、小川主査、多賀主任
山田主任、青柳主任

新城設楽振興事務所環境保全課：加藤主査

尾張県民事務所環境保全課：佐藤主査、山田主事

海部県民センター環境保全課：後藤技師

知多県民センター環境保全課：安原主事、杉浦技師

西三河県民事務所環境保全課：倉内主査

豊田加茂環境保全課：家田主査

(以上 14 名)

4 議題

(1) 平成 27 年度愛知県自然環境保全地域等の追跡調査の結果について

ア 自然環境保全地域

平成 27 年度の愛知県自然環境保全地域の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。なお、欠席した専門調査員の報告については、事務局が代読するとともに、指摘に対する回答を行った。

《主な意見等》

① 大沼（豊根村）

(福岡専門調査員) 巡視道の順路がわからなかった。また、こぶし大の転石があるなど危険なため、一般の人の入山を禁止する等の措置が必要ではないか。

下草はシカに食べられて丸裸状態である。シカの鳴き声が多く聞こえ、かなりの数が生息していると感じた。

保全すべき高木層は残されており、貴重な自然が残っている。

(服部専門調査員) 愛知県にこんなに自然の豊かな場所があることに驚いた。

登山道は非常に険しかった。

子育て中の鳥の鳴き声やアカショウビンなどの貴重な鳥が確認でき、人が入りづらい場所で、鳥にとっては良い環境であると感じた。

(森専門調査員) 保全地域内は、危険が多く存在するため、一般の人の入山を想定するかどうかで対応が変わる。

また、シカにより下草が全くなかった。

(協議会事務局) 巡視歩道については、経路の目印となるテープを補修した。一般人の入山は想定しておらず、また急峻なため歩道の整備は難しい。なお、危険に関する注意喚起看板については、掲示をしている。

シカの食害については、今年度より地元村と連携し捕獲圧を高める対策を講じており、今後も継続して行っていきたい。

② 壱町田湿地 (武豊町)

(成田専門調査員) 湿地の水分は給水によりまかなわれており、給水が止まると直ちに乾燥してしまう。また、循環による給水は、今後富栄養化を引き起こすことが危惧される。

ヒメミミカキグサは確認できなかった。C湿地にはオオミズゴケの他、新たにハリミズゴケ(県VU)が見つかった。C湿地は、被陰によりオオミズゴケが消失するおそれがあるので、草刈りが必要。

(岡田専門調査員) 武豊町からは小型のイトトンボを増やしたいとの希望があったが、斜面を水が流れ落ちる形状となっており、繁殖は難しい状況であった。

また、蝶を増やしたいとの要望もあったので、次回は蝶の専門家に踏査していただきたい。蝶のためには林内を明るくする必要がある。

(吉田専門調査員) この保全地域は周りから独立して、よく管理がされている。今後、湿地の水をどの様に充足していくのかは検討すべき。

地形・地質に関しては、特に変化はない。

(協議会事務局) 湿地の富栄養化については、武豊町で毎年水質検査を実施しており、検査結果の確認と生育状況の確認を今後実施していく。

湿地の被陰対策については、武豊町と県が実施しており、指摘を踏まえ今後も計画的に実施していく。

③ 山中八幡宮 (岡崎市)

(神戸専門調査員) オオフユイチゴは1箇所のみで見つかったが、渥美半島で見られるものと比較すると貧弱であった。

土手の草本類への除草剤散布については、控えてもらいたい。

ナラ枯れ(ツブラジイの巨木の枯木)については、今後進行が危惧される。

(協議会事務局) 木村専門調査員の調査報告書の代読

(中尾専門調査員) 露頭については、崩壊等無かった。

過去の調査での指摘もあるが、リサイクルステーションについては、集落からも離れた場所にあり、移動できないかと感じた。

(協議会事務局) ナラ枯れ、オオフユイチゴの保全については、管理者に対して指摘事項を伝え、対策の検討を依頼する。また、土手の草本類への除草剤散布については、管理者にソデ群落の役割を伝え、協力を要請する。

ゴミステーションについては、岡崎市の関係部局に伝える。

④ 東谷山 (名古屋市)

(村松専門調査員) 南西部の湿地は地元保全団体により保全活動がされ、回復していた。

南東部の湿地は昔は素晴らしい湿地だったが、今では被陰されシデコブシはわずかである。企業が保全活動を行っているが、作業が追いつかない状態である。

北部の瀬戸市境の谷では、名古屋で記録されていないシダ植物が5種類ほど発見されたため、今年更に調べていきたいと考える。

全体的には植生は豊かに残されていると感じた。

(水野専門調査員) 湿地は手が入っており、被陰されておらず良い状況が残されている。昆虫についても多く見られた。大きな変化はないが、外来種のムネアカハラビロカマキリはこの地域でも見られている。

環境は、よい状態で保たれている。

(山岡専門調査員) 湿地は湧水湿地であり、最近は鉾質土壌湿原も表現されている。

地質的に興味深いものはないが、花崗岩やホルンフェルス等名古屋市内ではこれだけ多くの岩石は見られないので貴重である。現状維持しながら保全していく必要がある。

(協議会事務局) 南西部、南東部の湿地の保全については、地元保全団体等と保全活動を実施しており、今後も計画的に実施する。

イ 自然環境保全地域候補地

平成27年度の愛知県自然環境保全地域等の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。なお、欠席した専門調査員の報告については、事務局が代読するとともに、指摘に対する回答を行った。

《主な意見等》

○ 吉川峠 (新城市)

(協議会事務局) 瀧崎専門調査員の調査報告書の代読

(榊原専門調査員) 山口西地区、山口東地区には水の流れがあり、水生生物が確認された。

ヒル、ミズムシの耐汚濁性種も確認されたが、サワガニ、カワゲラ類等の清水性の種も確認され、水質は良好であった。

(協議会事務局) 原瀬専門調査員の調査報告書の代読

(協議会事務局) 瀧崎専門調査員の指摘事項シカの食害については、今後も引き続き捕獲圧を高めていく対策を講じていく。

ウ すぐれた自然地域

平成 27 年度の愛知県自然環境保全地域等の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。なお、欠席した専門調査員の報告については、事務局が代読するとともに、指摘に対する回答を行った。

《主な意見等》

○ 六所山（豊田市）

(中西専門調査員) 全体的に自然環境は変化がないと思われる。キツネコースは調査の対象となっていないが、ブナ群落があり、ここまで含めて踏査するよい。

(協議会事務局) 緒方専門調査員の調査報告書の代読

(服部専門調査員) 花崗岩の風化が激しく、サバ化が進んでおり、何かの衝撃で転石等が起きやすいが、現地の管理者が点検、柵の設置などされており、管理がされている。

ハイカー等が多数訪れるので、適切に管理していただきたい。

(協議会事務局) きつねコースについては、調査対象とするか今後検討を行う。

転石等の危険について、管理者に伝えて、定期的な見回りを依頼した。

(3) 研究発表

- ・中西専門調査員（植物部門）から「小堤西池のカキツバタ群落」について、研究発表がなされた。

(4) その他

- ・事務局から、最近の本県の自然環境行政の情報として、希少野生動植物種等の指定について、説明した。
- ・次回の平成 28 年度第 1 回専門調査員協議会については、動物部門の専門調査員が研究発表を行うこととなった。
- ・愛知県環境審議会専門調査員協議会の会議録については、愛知県環境審議会運営規程第 7 条第 1 項の規定に基づき、岡田専門調査員（動物部門）及び吉田代表専門調査員（地形・地質部門）が署名者に選出された。